

確かな売り先があり、栽培期間の短縮ができる “加工用切り花”の栽培に取り組みましょう！

量販店などで仏花（写真1）が売られているのを見かけますが、仏事用としてとても重宝されています。この花束をほどいてみると、短く切られ、余分な葉を取り除かれた、ヒサカキ、輪ギク、小ギク、リンドウ、アスターなどからできています。

これらの花は花束加工業者で80cmのものを仕入れ、花束の高さを40cmに揃えるため茎を裁断し、不要な葉も取り除き、一束ずつ組まれています（写真2）。この時に多くの手間と裁断・除去した茎葉の廃棄物が発生しています。当センターではこの点に着目し、裁断量や調整作業が少なく済む40～60cm規格の切り花の大阪の卸売市場への出荷を提案しています。この規格では販売先（加工業者）が確実にあり、草丈が短い分だけ栽培期間の短縮が可能となります。

現在、当センターでは以下の品目をJAと連携して推進していますので、是非とも取り組んでみてください。詳しくは当センターまでご相談ください。



写真1



写真2

短茎小ギク



- ・仏花用に45cmで出荷する
- ・露地マルチ栽培
- ・東近江地域では約50戸が栽培

育苗：4月中旬～5月上旬

定植：5月上旬

収穫：7月下旬～8月上旬

滋賀県で栽培を推進している短茎小ギクと短茎中輪菊は市場、花束加工業者からの評価が高く、まだまだ出荷量は足りていません。

短茎中輪ギク



- ・ハウスでの少量土壌培地耕により、55～65cmで出荷
- ・電照により開花時期が調整でき、計画的な収穫出荷が可能
- ・東近江地域では集落営農法人を中心に水稻育苗あとハウス等を活用して約10戸が栽培

育苗：不要（苗は専門の業者から購入）

定植：5月中旬

収穫：7月下旬～8月初旬

アスター



- ・7月下旬～8月上旬に収穫
- ・花色、形が豊富なため使い道が多様
- ・少量土壌培地耕により連作障害が回避できる

ストック



- ・年末需要が大きい
- ・短茎中輪ギクやアスターの後作として施設の有効活用に
- ・無加温栽培可能